

重大な事故防止に向けた安全対策

【 14 ソフトボール 】

1 競技特性

ソフトボールは野球型の競技で、投げる、打つ、捕る、走るが基本動作となる。勝敗は野球と同様に2チームが攻撃と守備を交代しながら得点を競う（野球は9回、ソフトボールは7回が規定回数）ものである。球場は野球と同様の形状でホームベースを中心に1、2、3塁がダイヤモンド型に設置されている。しかし、1塁ベースだけがダブルベースを使用し、打者走者は赤い外側のベースを駆け抜け、守備者は白い内側のベースを使用する。この事により走者と守備者の接触リスクを避けている。ソフトボールのルールは野球とは様々に違う点があり、球場のサイズもコンパクトになっている。プレイスタイルで大きく違うところは、投手の投球方法がアンダーハンドピッチングとなっている事、盗塁は投球後まで離塁が出来ない事が大きな違いである。用具は野球と同様にバット、グラブ、ボール、ヘルメット、スパイク、帽子を使用する。競技対象者は年齢や性別、体力、体格にあまり影響されることなく大勢の人が競技として楽しむ事が出来る。

起きやすい事故としては、施設用具の不備、プレーヤーの衝突、ボールとの衝突、バットによる殴打、などが挙げられる。また、野外競技のため雷・突風・集注豪雨等の自然災害により起こりうる災害も考えられる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<グラウンドの状況> ・グラウンドの整備不良 ・雨等のグラウンドコンディション ・突風による障害物飛散 <用具の状況> ・バットやグリップの傷や損傷 ・ヘルメットの傷や損傷 <設備の状況> ・施設や器具に衝突して起こる。	・打撲、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、捻挫、骨折 ・打撲、捻挫、骨折、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう ・打撲、骨折、眼球損傷、脳しんとう ・打撲、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう、脳座礁 ・打撲、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう	活動前にグラウンドの状態を確認する。グラウンド整備に必要な用具を整える。用具の正しい使用方法を身につける。 ・地面の凸凹や滑りやすい場所、芝生の状態を事前に確認しておく注意する。 ・風により飛散しそうな物の状態をチェックする。 ・突風等を確認したら一時試合を中断する。 ・日頃から自分の道具を整理する意識を持たせる。 ・グリップテープの状態をチェックしておく。 ・バットの表面の凹凸やキズ、打撃音の異常があるバットは使用しない。 ・日頃から自分の道具に対して点検する意識を持たせる。 ・日常的に使用している設備の不備がないか点検する。 ・設備品器具類に正しい使用方法を確認する。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<試合前の練習> ・選手同士(自他の両方)の接触のために起こる。 ・キャッチボール方向の交差	・打撲、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、捻挫、骨折 ・打撲、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう	・活動前にグラウンドの状態を確認する。 ・選手間の安全な活動距離を確認する。 ・声を出し危険回避の習慣を身につける。 ・並列で同一方向へ投球すること、他のペアと距離が十分であることを確認する。

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ピッチャーの投球練習の方向の交差 複数のバッティング練習 ノックの練習 <p><試合中></p> <ul style="list-style-type: none"> 投手の暴投 打者のスイングと捕手の接触 イレギュラーバウンド 打球・送球の捕球ミス スライディング時 野手同士の衝突 野手と走者の衝突 <p><試合開始・終了></p> <ul style="list-style-type: none"> 開始・終了の整備(レーキの扱いなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折・脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷 打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷 打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷 腹部打撲、内臓損傷 	<ul style="list-style-type: none"> 捕手の後方に人がいないことを確認する。 バットスイングする選手の背後に近付かない。 同時に打たない。 トス者とバッターの位置に注意する。 ノッカーのバットスイングに当たらないようにタイミングと距離に注意する。 ノッカーは守備者の捕球から投球を確認してから次のノックをするように注意する。 ウォーミングアップを十分に作る。 汚れて滑るボールはまめに交換する。 普段の練習段階からコントロールを身につける。 頭部付近への投球は絶対にさせない。 打者はスイング後にバットを放り投げないようにする。 捕手は打者に近付き過ぎないようにする。 捕手は防具の点検を普段から心がける。 グラウンドの状態を事前に確認する。 普段からボールの捕球技術を養い、イレギュラーな打球にも対応できる技術を身につける。 顔面に直撃しないような捕球姿勢と反射神経を身につける。 普段の練習で捕球技術を磨き実践で十分対応できるようにする。 常に集中力を切らさないように注意する。また互いに声かけをして次のプレーを予測する。 普段からスライディング技術の習得練習を行い安全なスライディング技術を身につける。 試合では正しいスライディングを実践する。 野手間の守備範囲や声のかけ方等を日常の練習で確認する。 打者走者はヘルメットを必ずかぶらせる。走者については正しい走塁の仕方を指導する。 守備者はベースの一角をあけて走塁の支障にならないように指導する。 本塁上のプレーについてはルールに添ったタッチプレーの仕方(ブロックで走路をふさがない)を練習で徹底して指導する。 グラウンド内に整備を行う上で支障がある突起物等がないかチェックしておく。 安全なレーキの使い方を指導しておく。特に押すときには腹部に当たらないように指導する。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<p><竜巻・突風></p> <ul style="list-style-type: none"> 竜巻等の突風により防球ネットが倒れる、または物が飛ばされる(全会場注意) 	<ul style="list-style-type: none"> 打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷 	<ul style="list-style-type: none"> 活動前の気象情報入手・活動中の天候等の変化に注意し対処する。風の向きや強さなどの状況を把握する。 ネットの置き方を工夫する。飛ばされて危険な道具や用具は注意して管理する。

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 竜巻・突風に巻き込まれる (全会場注意) <落雷> ・ 落雷 (全会場注意) <集中豪雨> ・ 河川の氾濫・鉄砲水 (渡良瀬運動場や柳田緑地運動場などの河川敷) <熱中症> ・ 熱中症 <その他> ・ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打撲、骨折、脳しんとう、脳挫傷、心肺停止 ・ 感電、心肺停止、意識不明 ・ 心肺停止、意識不明、裂傷、打撲 ・ 熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急激な気象変化(黒雲・冷たい風・雷鳴等)に注意し異変を感じた時には速やかに避難する。 ・ 当日の気象情報を事前に入手し対策を検討する。 ・ 天気が急変した時は、素早く判断して競技を中止し避難する。 ・ 各競技会場へ速やかに避難指示を出す。 ・ 避難場所・避難経路・避難方法を事前に計画し競技者を含め関係者全員に周知徹底する。 ・ 当日の気象情報を事前に入手し対策を検討する。 ・ 天気が急変した時は、素早く判断して競技を中止し避難する。 ・ 短時間の豪雨時は速やかにグラウンドから高台に避難し、参加者の人員点呼を実施する。 ・ 現地で雨が降ってなくとも、放水や鉄砲水の警報音が鳴った時は速やかに高台に避難する。 ・ 事前の気象情報確認と当日の気温変化に注意するこまめな水分補給をする。 ・ WBGTの温度計を設置し活用する。 ・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

安全確認チェックリスト

【 14 ソフトボール 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	グラウンドが整備されているか	✓
	ベースはしっかり固定されているか	
	十分にスペースをとり、周囲に気を配ってバッティング、ノックを行っているか	
	ネット自体の破損や、支柱が腐食していないか	
	ベンチの破損、選手との衝突、ボールの飛び込みに対応しているか	
	外野フェンスは、認識しやすくなっているか	
	バット、ヘルメットに認定マークは付いているか	
	体力や技術に合った道具が選ばれているか、手入れはされているか	
	ボールやバットに傷や変形はないか	
	整備用具の破損や変形はないか	
	観客にボールや打球が当たらないように距離をとっているか	
	避難場所や避難誘導経路は確保されているか	
	救急車の侵入経路は確保されているか	
活動内容	周囲の選手との距離をとって、キャッチボール、バットスイングをしているか	
	安全な方法でキャッチボールやバッティング練習をさせているか	
	正しいスライディングが出来ているか、指導できているか	
	選手同士の接触の予防として、声や周りからの指示を徹底させているか	
	バットスイング後にバットを放り投げていないか	
	炎天下で帽子をかぶっているか	
	水分補給や休息は適切にとっているか	
	体調の悪い選手、怪我をしている選手はいないか	
	ウォーミングアップやクーリングダウンは十分か	
	投手が頭部付近への危険な投球をしていなかったか	
捕手が前に出過ぎて危険な捕球をしていなかったか		
ベンチの選手も集中し打球や送球に注意していたか		
環境条件等	緊急時の連絡・避難・誘導體制は計画されているか	
	RICE処置やテーピング等の応急処置を、指導者、選手が十分理解・実践できるか	
	医薬品などは準備できているか	
	水や氷の準備はできているか	
	気象情報等の事前情報の入手はできているか	
	救急病院、警察・消防署等への連絡体制は準備できているか	
雷・突風・集中豪雨・熱中症の対策はとられているか		
発令時対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)

--	--	--